増改築計画　進行中！

8月から始まった、新病棟建設工事も、着々と進んでおります。
10月には1階部分の配筋工事、11月からはセメント流し込みが行われ、1階部分が完成しております。
12月中は2～3階部分の躯体工事、2020年1月からは併せて各階の内装工事を行います。
新棟の完成とそれに伴う引っ越しは2020年夏を予定しています。
（入院患者様へ、病棟移転などの日程は、改めてご案内させていただきます）

患者様、当院に来訪される方、近隣在住の皆様には、引き続きご迷惑をおかけいたしますが、ご了承賜りますよう、お願い申し上げます。

写真上：2019年5月
建設準備工事着工時
写真右上：2019年10月
写真右：2019年12月末
ともに当院屋上より撮影

医療法人 同和会　千葉病院

【病院概要】

■ 診療科
精神科・神経科・歯科（要予約）
■ 院長
小松　尚也
■ 外来診療時間
平　日9:00～12:30（月曜日のみ9:30～12:30）
土曜日9:00～12:30（午後は予約制）
■ 休診日
木曜日・日曜日・祝祭日・6月1日（創立記念日）
■ 所在地
〒274-0822　千葉県船橋市飯山満町2-508
TEL：047-466-2176　FAX：047-466-7503
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：//www.chiba-hp.on.arena.ne.jp
■ 千葉県認知症疾患医療センター
TEL：047-496-2255　FAX：047-496-2256

千葉病院　患者様の権利
①個人として、人格およびプライバシーが尊重されます。
②安全な環境で、可能な限りの良質な医療が提供されます。
③職員のいかなる行為に対しても説明を求め苦情を申したてることができます。
④精神保健福祉法に則った医療および処遇が保障されます。
⑤職員から思想・信条・宗教および個人的関係は強制されません。
⑥個人情報は保護されます。

編集後記
当院の活動紹介は、毎号各部署を持ち回りで紹介しておりますが、今回は、入院患者様とは関わりが深いものの、あまり表に出てこない、「栄養科」を紹介させていただきました。精神科はどうしても長期の入院を要する患者様がいるので、食事にさまざまな工夫をして、生活に変化を感じていただいています。

発　行：医療法人同和会　千葉病院
発行日：令和元年12月31日
住　所：千葉県船橋市飯山満町2-508
TEL　047-466-2176　Fax　047-466-7503
URL://www.chiba-hp.on.arena.ne.jp/

ういんぐ　＝WING＝

千葉病院広報紙　2019. 冬号（第66号）発行者 医療法人同和会 千葉病院

東葉高校ダンスドリル部の息の合ったダンス
若さと躍動感にあふれていました。

芸術鑑賞会

10月に予定されていたものの、台風の影響もあって延期されていた、令和最初の芸術鑑賞会が、11月16日に開催されました。
急遽の変更開催であったため、演目としては、アウローラウインドオーケストラによる吹奏楽演奏と、東葉高校ダンスドリル部によるダンスの2演目だけでしたが、とても賑やかで楽しい時間を過ごすことができました。

当院は現在増改築中のため、例年どおりの全体レクリエーションを行うのが難しい状況ですが、患者様の気分転換など治療の一環として、今後もこういったレクリエーションを企画してまいります。

アウローラウインドオーケストラによる演奏。
映画「男はつらいよ」をモチーフにした寸劇もあり、会場を盛り上げました。

ここは千葉病院の活動を紹介するコーナーです

栄養科の紹介

管理栄養士　村越佐和子

千葉病院の栄養科では、『安全で家庭的な食事の提供』という理念のもと、患者様に朝・昼・夕のお食事を提供しています。その数は、一日で約1,000食になります。
下の写真は一食約300人分のスープを作る釜と、約50人分のご飯を炊く炊飯釜です。

当院では週に3日間（火・水・金曜日）、朝食と昼食に選択メニューを提供しています。事前に患者様にメニュー名をお知らせして、患者様ご自身で2種類の献立から好きな方を選んでいただく形となっています。下の写真は一例です。

赤トレー：スパゲティミートソース
　　野菜サラダ
緑トレー：オムレツミートソースかけ
　　野菜サラダ
　　スープ

２種類の献立からお好きな方をお選びいただけます。

また、栄養科では、食事の提供だけでなく、4ヶ月に一回、入院中の全患者様に対して栄養管理スクリーニングを実施しています。栄養管理スクリーニングとは、患者様の身体計測や血液検査の結果・食事の摂取状況などから患者様一人一人の栄養状態を知り、患者様個人の問題点を取り上げ、栄養科だけでなく、医師・看護・その他の部署の職員と連携して改善していこうという取り組みです。

簡単ではありましたが、栄養科の紹介をさせていただきました。
これからも、栄養科一同、患者様に安全でおいしいと言っていただける食事の提供を目指していきたいと思います。

情報管理のゼミを行いました

当院では、職員に向けて毎月1～3回の「中央ゼミ」を行い、知識の向上やスキルアップを目指しております。
「院内感染対策」「医療安全対策」など、医療従事者として必須の知識に関する講義はもちろん、「手指消毒について」や「AEDの活用」、「医療倫理について」といったものや、時に外部講師を招聘した特別講座なども開催し、職員への啓蒙を図っております。
12月18日には、当院診療情報管理士による「情報管理・守秘義務」についてのゼミを行いました。
医療機関に限らず、個人情報の管理やプライバシーの保護が重要視されている時代なので、これらのテーマについては今後も取り上げ、職員の意識向上を図ってまいります。

千葉病院Ｄｒによる医療コラム　第36回

大人の発達障害について　その3

千葉病院医師　山﨑 史暁

3回にわたり発達障害について簡単に話をしてきましたが、今回で最後になります。今回は前回話をしたとおり、発達障害の生きづらさと、その解決のために出来ることについて話をしていこうと思います。

前回の話に戻りますが、二次障害がある場合、まずはそちらを治療することが大切です。薬に対する反応性が悪かったり、逆に感受性が強く副作用が出やすかったりしても、ちゃんと治療を受けることで、ある程度の症状改善が得られます。二次障害の症状がある程度改善して、初めて生まれ持った発達障害に対する介入が出来るわけです。例えば、元々の感覚の過敏さが困っているという人であれば、少量の抗精神病薬を使って脳の興奮を制御することで日常生活が送りやすくなることもあるし、人付き合いの苦手さのせいでうつ病になった人であれば、職場の配置転換やより自分に合うような仕事を探したり、SST（ソーシャルスキルトレーニング）などで、人付き合いの仕方について勉強したりするといった生活環境調整に、より今までよりも日常生活でのストレスを減らしていくという選択肢も考えられます。一言で発達障害と言っても、困っている点は人それぞれで、それに合った治療や支援を考えていくことが大切です。

発達障害を疑って大人になって初めて精神科にかかった人で、発達障害の厳格な診断基準を満たす人は実際にはそれほど多くありません。それは、発達障害は生まれ持った脳の機能の偏りであり、その苦手さに対して、なんとか対処して生活していくことで、幼少期には明らかにあった症状が今は我慢できるようになった、ということが多々あるからです。ですが、発達障害の治療、支援はどれだけ症状が重いか、多いか、というよりも現在どれだけ日常生活で困っていることがあるか、ということが重要になってきます。発達障害と厳密には診断名が付かずともコミュニケーションが苦手だったり、集中力が無くて物忘れが多かったりするなどの発達障害っぽい傾向があり、それによって生活や仕事の中で困難がある、ということがあれば、前述のような治療や支援を受けることは十分に可能です（もちろん発達障害ではなく不安障害やうつ病という診断名となることもあるでしょう）。

簡単にまとめると、現在の仕事や学校生活などで生きづらさや悩みを感じているのであれば、一度精神科や心療内科に受診してみることで、今、もしくは昔からずっと困っていることについて何らかの解決策が得られるかもしれません。ご相談したいことがあれば気軽に当院までお声がけください。